

B 3 3 中級～ (PC 実習あり)		事業戦略のための特許情報の活用と分析 目的別の特許情報分析手法 分析目的に最適なパテントマップ作成など
講 師	葉山 英樹 (ワイズ特許サービス(株)、元日東電工(株) 技術企画部知的創造グループ長)	
日程・場所	東京会場	
	7月4日(木)、2020年2月6日(木)	
時 間	1日間(10:00～16:00) // 昼休憩 11:45～12:45	
アクセス	http://www.jpds.co.jp/company/access.html	
定 員	24名(先着順申し込み)	
受講料(税別)	20,000円	
対 象	特許調査・分析担当者	
内 容		
<p>パテントマップを作ったけれど、どう活用していいかわからないという声をよく聞きます。本来、パテントマップはある目的に応じて作るもので、目的に適した特許情報分析を行わないと何の役にも立ちません。本講座では、特許情報分析を行う上で必要な考え方、基本知識を学んだ上で、自社分析、競合分析、市場分析の考え方・ポイントについて事例を通して学びます。また、R&Dとの効果的な連携、事業に効果的に活用していくためのヒントなども紹介致します。特許情報分析に従事される方々の心構え、分析手法の習得、組織的なあり方などにもご活用頂ける実践的なセミナーです。</p>		
プログラム		
1. 情報分析の基本 <ul style="list-style-type: none"> ・ 分析とは? ・ 情報分析で良く起きる問題 2. 特許情報分析の基本 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特許情報分析の目的 ・ 分析の切り口 ・ 動向分析と情報活用 ・ 事業戦略への活用 ・ 主要パテントマップ ※ 特許情報分析に関する討議 3. (自社・競合・市場) 3C分析 <ul style="list-style-type: none"> ・ 3C分析の基本 ・ 自社分析・自社の強み ・ 競合分析・競合との違い ・ 市場分析・ニーズ課題動向 	4. 動向分析演習 <ul style="list-style-type: none"> 分析の切り口を考える 分析軸(マップの2軸)の設定 分析結果からわかること(仮説) 分析プロセスの整理 分析を行う上での問題点 5. R&D部門との効果的な連携、知財部門の役割 <ul style="list-style-type: none"> ・ なぜ、情報提供がうまくいかないのか? ・ 効果的な連携方法 ・ 知財部門として獲得するスキル 6. R&D技術者向け実践分析手法の紹介 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特許情報を活用したテーマ探索 連続・非連続イノベーション ・ 構造化による発明支援手法 	

【備考】

- ・ 分析演習の一部で、商用の特許分析・マップソフト「ぱっとマイニングJP」を使います。PCは当社にてご用意いたします。
- ・ セミナーご参加の方で事前にご質問や特に説明をお聞きになりたい内容がございましたらお申出下さい。セミナー当日に可能な限りお答えさせていただきます。

【日本弁理士会継続研修について】

本研修は、日本弁理士会の継続研修としての認定を申請中です。本研修を受講し、所定の申請をすると、外部機関研修として単位が認められる場合があります。